



2021年(令和3年)

8月4日  
水曜日

# 高付加価値品提案へ力

## ハンド採用拡大に手応え

# アイコクアルファ

自動車部品メーカーのアイコクアルファ(本社稲沢市祖父江町、樋田克史社長)は、荷物の移動作業を支援するハンドクレーン「ラクラクハンド」で高付加価値な製品提案に力を入れている。利用者の動きへの追従性や、荷物をつかむ部分などを進化させ、自動車の組立ラインを中心に採用が拡大。2021年度の販売数は前年度比8%減の416台の見込みだが、売上高は12%増の35億円とピーク(18年度の約41億円)の8割強まで回復する見通し。安定的な収益基盤につなげる狙いだ。

(勝又佑記)



重い荷物を運ぶ作業を支援するラクラクハンド

ラクラクハンドは、自動車のドアやシート、インパネなどの取り付けに利用さ

れている。電気が圧縮空気により荷物の移動作業を支援し、利用者が重い荷物を運ぶ負担を減らす。従来2人で行っていた作業を1人に省人化もできる。自動車以外では、鉄道や食品分野などで利用が拡大。同社の一宮工場(一宮市)で受注生産している。

高付加価値製品として、荷物をつかむ部分を工夫して7種類の異なるドアに対応できる製品などを提案。さらに高い追従性を持たせて、作業者の円滑な動作を支え製品の品質確保に貢献している。このほか安全機能を追加したり、省エネルギー性能を高めている。

かつては安価で機能を簡素化した製品を中心に展開していた。最高の販売数は01年度の933台と現在の約2倍に上るが、売上高は30億円弱にとどまっていた。収益性の改善を重要課題とし、高付加価値品の提案に努めてきた。

樋田社長は「良い製品を造り続ける中で、顧客から当社製品が求められるようになってきている」と手応えを話す。